

寫

極秘

蒙疆長官發政務部長宛電稿

日蘇中立條約ニ依リ日本側ガ外蒙ノ獨立ヲ承認シタル事ハ全内蒙古人ニ對シ意外ノ衝動ヲ與ヘタルガ如シ明十七日ノジーンギスカン紀念式典參列(毎年恒例)ノ爲ト德王溥日ノ結果報告ヲ蒙ネ德王ガ予テ隱密裏ニ當地ニ召集シアリタル全王侯ヲ本日德王ノ私邸ニ集メ獨立問題ニ關シ談シタルガ如シ其ノ内容詳知シ得ザルモ日本側ガ内蒙ノ獨立ニ對シ充分満足ヲ與ヘザルニ拘ハラズ外蒙ヲ先ニ承認シタル事ヲ不滿トシ全王侯ノ決議ヲ以テ近ク日本側ニ對シ内蒙ノ獨立ヲ要望スルベキモノナリトモ噂セラレアリ眞偽ハ明カナラザルモ參考迄ニ事實判明次第報告ス

内閣

B5 タイプライター用紙

0276

昭和十六年四月二十一日

政務部第一課長

殿

蒙疆ノ狀況報告ノ件

首題ノ件ニ關シ蒙疆連絡部小川調査官上京ノ際携行セルヲ以テ送付ス
追テ之カ細部並實情ニ關シ明明後日中ニ小川調査官ヨリ聽取ノ答ニ
付豫メ御研究願度

配付先 政務部長(一部) 政務第一課長(二部)
政務第二課長(二部)

内閣

B5 タイプライター用紙

0277

REEL No. A-0214

アジア歴史資料センター



狀
況
報
告

於昭和十六年四月
興亞院

0273

興亞院蒙邊連絡部

一 概況

- 1. 蒙邊行政
- 2. 邊境防務
- 3. 蒙邊交通

蒙邊行政
蒙邊防務
蒙邊交通

二 政治

三 經濟

四 名義
蒙古自治邦

第一、政務ニ關スル事項

一、政府機構ノ改正ニ就テ

政府機構ハ政權樹立後約一年半其間ノ實踐ニ鑑ミ概ネ左ノ點ニ重點
ヲ置キ昨年未末來研究ノ結果略具體案ヲ得近ク其決定ヲ見ントスル狀
況ナリ其案ニ就テハ口頭ヲ以テ報告ス

(1) 高度國防政權トシテノ機能ヲ完全ニ發揮シ政治ノ運營ヲ敏速確實
ナラシムルコト

(2) 機構ヲ簡易明確ニシ各其ノ主要任務ヲ明瞭ナラシムルコト

(3) 人的要素ハ日人ノ現地人タルヲ問ハス力致精銳主義ニ依ルコト

(4) 蒙地行政ノ浸透ヲ促進スル爲特別ノ機關ヲ設置ス

(5) 其ノ他補助機關ハ必要ノ最少限ニ壓縮統合ス

二、政情一般ニ就テ

一般現地人ノ民心ノ動向ハ逐次安定ノ方途ニ向ヒツツアルモ未タ業
觀ヲ許ササルモノアリ即チ當地域ハ赤化セル外蒙ニ直接赤化抗日ノ

深刻執拗チ地下行勢アリ且對日的ニハ日本側官民ノ現地人ニ對スル
態度ノ適切ヲ缺クモノアリ之レカ蒙地反セシムルノ原因ニ依リ
敵側ノ施策ハ一層油ヲ注クノ結果トナリ又特ニ蒙地帯ニ於ケル物
資配給ノ不圓滑ハ益々此傾向ヲ大ナラシメツツアルカ如シ、依テ連
絡部トシテハ、之カ對策ニ關シ軍ニ連絡シ、政府ヲ鞭撻シ政府機構
ノ改正ト經濟ノ確立ト相俟テ之等障礙ヲ除去シ民心ヲ安定セシ
ムルタメ銳意努力シアリ

三、內蒙古思想的狀況

地域內蒙古人ハ一般ニ政治的獨立ノ思想強ク特ニ現狀ニ飽キ足ラヌ
シテ(1)王侯等ノ封建制度ヲ保存シツツ蒙古ノ興隆ヲ期シ獨立ニ導カ
ントスルモノ(2)王侯制度ニハ必スシモ否定セサルモ蒙古ノ興隆ノ爲
ニハ王侯ノ覺醒ヲ先決トナスモノ(3)王侯打倒蒙古獨立ヲ標榜スルモノ
(4)青年ヲ中心トスル急進熱烈ニ封建打倒ニ依ル獨立ヲ企圖スルモノ
ノ等アリテ此等ハ直接間接ニ現政府蒙古人要人特ニ德王ニ迫リ其目

的達成ニ暗躍セリ、先般徳王ノ訪日モ此氣運ヲ打開セントスル意圖ニ出タルモノニシテ、日本側トシテモ此蒙古人ノ思想動向ヲ適宜善導シ以テ蒙疆特殊ノ政治的使命ヲ達成セシメサルヘカラス、之カ施策ニ關シテハ目下慎重ニ考慮シツツアリ、其細部ハ口頭報告ス

一般治安ニ就テ

蒙疆地區ノ治安ハ皇軍敷次ノ肅正討伐ニ依リ逐次良好ニ向ヒツツアルモ二月末現在ノ敵總兵力ハ尙約五七、三九〇名ヲ算シ之ヲ昨年ニ於ケル平均敵兵力約五〇、五〇七ニ比スレハ約七千ノ増加ニシテ重慶偽政府匪軍、馬占山軍及ヒ回教軍ハ黃河右岸鄂爾多斯地區ニ在リ又共產軍ノ主力カ京包線豐鎮西側地區及ヒ察南、晋北南境內長城線一帶ニ蟄踞シアリテ樂觀ヲ許サス然レ共敵ハ兵器、彈藥ノ缺乏ト給養ノ困難トニ依リ戦力頓ニ低下シ加フルニ軍及ヒ、各警備機關ノ嚴重ナル警戒ト、不斷ノ討伐トニ依リ最近投降歸順増加シ、治安ノ確

保概シテ可ナルモ最近舊日威ノ反響等アリ斷シテ倫安ヲ許ササル所ナリ、特ニ伊克昭盟ノ大部ノ地區ハ蒙疆政權ノ威力未タ滲透セル純然タル敵地タルト共ニ、察南、晋北ノ各南部一帶ノ地區亦同様皇軍威力ノ徹底セサル最モ危險ナル地帯ヲ形勢シアルハ明朗蒙疆建設ノ爲寔ニ遺憾トスル所ニシテ、治安工作上將來ノ努力ヲ要スル所ナリ

鐵道治安情況

鐵道沿線ノ治安ハ良好ニシテ、本年ニ入りテヨリ鐵道ノ匪害ハ僅カニ列車顛覆二件、轟襲擊三件ニシテ、尙鐵路當局ハ宣撫工作ニ依リ愛路村ノ強化ト警備ノ嚴重トニ依リ沿線治安ノ確保ニ努メツツアリ最近ニ於ケル著名ナル敵ノ行動

由來厚和、包頭地區ハ傳作義ノ舊地盤ナルヲ以テ今日迄屢々其奪回ヲ謀リシカ、本年三月中旬ニハ優勢ナル回教軍ヲ鄂爾多斯地區ニ侵入セシメ、同地ニ在リシ綏西聯軍及ヒ蒙古軍ノ一部ヲ包圍攻撃セシモ友軍ノ奮戦ト日本軍ノ協力ニ依リ之ヲ擊退セリ

敵ノ擾亂工作

本年ニ至リ重慶側及ヒ傳作藝ノ後方擾亂工作ハ益々熾烈ニシテ何レモ謀略團員ヲ派遣シテ情報ノ蒐集、民衆武裝化ニ依ル抗戰意識ノ昂揚等ニ從ハシメ或ハ便衣隊ヲ潜入セシメ要人ノ暗殺、經濟、鐵道及ヒ通信線ノ破壞ヲ試ミ、又ハ共產軍ハ警察隊、自衛團ノ襲撃、強制募兵等我カ占據地域内ノ擾亂工作ニ狂奔シアリ

共產黨ノ活動情況

駐蒙軍ハ各機關ヲ統制シ治安肅正ノ第一目標ヲ共產黨ノ徹底的撲滅ニ指向シ銳意努力シアルカ彼等ノ活動ハ滯行的極メテ巧妙ニシテ、昭和十三年五月以降蒙疆赤化ノ目的ヲ以テ、厚和ニ緩蒙支部ナルモノヲ組織シ各層民衆間ニ喰入り赤化工作ニ狂奔シアリシカ、昨秋當地憲兵隊ハ之ヲ檢擧シ其ノ芟除絶滅ニ邁進シアリ、然レ共產軍ノ巧妙ナル宣傳ノ爲邊境共產地區殊ニ厚和南方清水縣各部落ノ如キハ全民衆悉ク其ノ手先トナリ抗日反新政權ヲ標榜シテ共產軍ヲ援助シ

アリ、特ニ最モ戒心ヲ加フヘキハ共產黨ノ對蒙古人宣傳ニシテ最近彼等ハ四子王府及ヒ純蒙地帯タル「シラムリ」ニ迄赤化ノ魔手ヲ伸シ蒙古人青年層ニ澎湃タル王侯打倒、蒙古獨立運動ノ思想ヲ巧ニ利用シ執拗ナル宣傳ニ銳意從事シアルコトハ蒙疆統治上重大ナル問題ニシテ北方ヨリ來ル外蒙ノ強遷ト併セテ之カ策謀對策ハ最モ願慮ヲ要スル重要事項トス

五 政府人事ニ就テ

從來政府ノ行政機構ノ過大ニスクルニ伴ヒ其ノ職員數ノ多キニ過タルコトハ一般ニ認メラルルトコロニシテ政府ハ行政機構ノ改革ヲ企圖スルト共ニ職員整理ノ必要ヲ認メ昨年第一回ノ整理ヲ行ヒ日系高等官五名、屬官九名、現地系高等官二五名、屬官五〇四名ヲ淘汰シ更ニ本年第二回トシテ三月三十一日附ニテ日系高等官二九名、委任官九七名、現地系高等官二七名、屬官九三五名ノ淘汰ヲ實施セ

以上ノ整理ノ結果四月一日現在ノ政府委任官以上ノ現在職員數ハ左ノ如シ

(一) 中央官廳及其ノ直轄官廳

日 系	八五六名
漢 系	三九九三名
蒙 系	一八〇名
計	五〇二九名

(二) 各政廳盟公署及其ノ直轄官廳

日 系	七三二名
漢 系	八二三九名
蒙 系	一一二八名
計	九一一九名

(三) 各市縣旗公署及其ノ直轄官廳

日 系	三八五名
-----	------

漢 系	三〇四七名
蒙 系	一三六名
計	五三六八名

以上總計日系一、九九三名、漢系一、七二七九名、蒙系四、四四七名、合計一九七一六名ニシテ内警察關係職員警附補以上約二、三〇〇名ハ内日系約五〇〇名ナリ
依テ前述政府機構ノ根本的改正ト相俟テ人事行政ヲ確立シ日系現地系ノ比率ヲ規正シ尙特ニ現地系職員ノ活用ニ就キ極力指導監督セントス

第二、財政、經濟ニ關スル事項

一、政府ノ財政狀態

政府財政ハ政權獨立直後諸事業施設ノ急激ナル澎張ト、昨年度農作物ノ不作水害ニ依リ一時財政急迫シタルモ爾來緊縮健全主義ヲ敢行シ一般會計ニ於テ一昨年度ハ二千萬圓、昨年度ハ千五百万圓

ノ借入ヲ爲シタルモ本年既豫算ハ借入金ヲ全廢スルヲ得タリ、豫算額ニ於テモ昨年度ハ約六千万圓ナルヲ本年度ハ五千三百万圓ニシテ約七百万圓ノ節減ヲ以テ實現スルニ至レリ

尙政府債ノ現況ハ昨年末ニ於テ

總額 七一〇三萬圓

一般會計 三〇〇〇萬圓

特別會計 四一〇三萬圓

ニシテ本年度起債豫定額ハ實行豫算ニ依レハ總額一、六六六萬圓ハ全部特別會計ニテ

地方費ノ設定

稅收入ノ増收ト地方行政ノ圓滑化ヲ圖ル爲本年一月政廳、盟地方費法ヲ公布セリ、計ニ依レハ賦課、地方稅ノ收入ハ田賦、禁烟、特稅、其他基本財源收入等ニシテ其支辨スヘキ費目ハ警察、文教、土木、勸業、及厚生ニ關スル經費、市縣財政整理ニ關スル經費ナリ、

目下爲行準備中ニシテ七月頃實施スル豫定ナリ

ニ爲替、貿易關係

當地域ハ事變前ニ於テハ農牧ヲ中心トスル原始産業ト、西北地域ト京津ヲ結フ通過貿易トニ依存セルモノニシテ的確ナル統計ノ據ルヘキモノナキモ例年輸出超過ノ狀態ナリシモノノ如ク、昭和十三年度ニ於テモ輸出約一億六百万圓輸入約七千万圓差引三千六百万圓ノ輸出超過ナリシカ、昭和十四年夏ノ大水害ニ依リ、輸出ノ減退ハ約九千二百万圓ノ輸入ノ激増ハ約一億二千万圓ノ來シ爲ニ約二千八百万圓ノ入超トナリ更ニ昭和十五年度ニ於テモ開發資材其ノ他生活必需品等ノ爲約一億五千九百万圓ノ輸入ニ對シ、輸出ニ在リテハ其ノ大宗タル阿片ハ約三百九十万兩、約六千三百万圓ノ輸出ヲ見タルモ雜穀ノ出廻不振ハ約四万兩等ノ爲輸出總額約一億一千五百万圓ニシテ四千四百万圓ノ入超トナリ、斯クテ連年ノ貿易逆調ノ爲爲替資金ノ個湯ヲ來シ日本、滿洲及北支ニシテチツトヲ設定シ本年三月

末ニ於テ日本ヨリ七百五十五萬圓、滿洲中央銀行ヨリ七百五十萬圓、中國聯合準備銀行ヨリ四百三十九萬圓ノ借入金ヲナシ居ルモ尙五千餘萬圓ノ爲替送金ヲ抑留シツツアル狀況ナリ
之カ對策トシテハ總關ノ促進等ニ其ノ大宗タル阿片ト雜穀ノ輸出増加ヲ圖ルト共ニ緊急ナラザル物資ノ輸入抑制ニ俟タサルヘカラス、即チ阿片ニ付テハ昨年十一月ノ英亞亞細亞委員會幹事會議ニ於テ當地域ハ阿片ノ生産地トシテ生産阿片ノ完全收納ニ努力シ、最短期間内ニ中北支所獲產量ノ合理的價格ニヨル移出ヲ可能ナラシムヘク決議セラレ、昭和十六年度供給計畫ニ於テハ最小限度ノ數量トシテ前年ノモノ二百十萬兩當年ノモノ六百五十萬兩計八百六十萬兩(假ニ一兩十五圓トスレハ一億二千九百萬圓トナル)ヲ北中支ニ供給スヘク計畫シアリ
雜穀ニ付テハ北支トノ協定ニ依リ、昭和十五年度生産ノモノニ付三十萬兩(一兩二百五十圓トスレハ七千五百萬圓トナル)ノ輸出計畫

0284

ナリシモ收荷意ノ強クナラズ現在迄ニ僅カニ約三萬兩ヲ輸出セルニ過キヌ之カ收荷機構ニ付テハ種々考究中ナリ
輸入ノ抑制ニ付テハ總關ノ爲替管理及貿易統制ヲ行ヒツツアルモ尙前記ノ如ク三千餘百萬圓ノ送金許可ヲ留保セル狀況ナリ、之ヲ要スルニ貿易ノ逆風ハ一層強ク變調ニシテ、阿片及雜穀ノ輸出ニシテ願圖ナルニ到ラハ之ヲ挽回スルコト容易ナルヘク必スシモ悲觀スヘキモノニ非スト思考ス

三、金融關係

中央銀行タル蒙疆銀行ハ昭和十二年十一月設立セラレ地域内唯一ノ發券銀行トシテ活動シツツアリ、其ノ通貨發行高ハ四月九日現在ニテ約七千三百七十九萬圓ニシテ之カ流通區域ハ敵性地區ヲ除ク全地域ニ及ヘリ。全行ノ預金總額(本年三月末現在以下全シ)六千九百六十八萬九千圓貸付金總額一億五千六百九十四萬八千圓ナリ
實業銀行ハ察南、蒙古、晋北ノ三銀行アリ其ノ預金總額三千萬二千圓貸付金總額四千四百三十六萬六千圓ナリ

現地資金ノ調整ニ付テハ領事館及政府ト連繫シ連絡部ニ於テ行ヒツ
ツアルモ之カ強北ノ爲關係者ヲ以テ資金調整審議會ヲ設置スヘク計
畫中ナリ

北支トノ經濟的關聯性ニ付テ

當地域(地型)ニ北支ト密接シ經濟的ニモ北支ニ依存スルコト多ク其ノ
關係最モ緊密ナリト雖モ一方經濟的利害ヲ超越シタル純然タル帝國
國防ノ政策的使命ヲ以テ生シタル當地域トシテハ其ノ政治的ニ獨立
スル爲ニハ財政經濟的ニモ獨立スルニ非ザレハ決シテ其ノ使命ヲ達
成スル能ハス。即チ其ノ地域的關聯性ニ於テ、又區域全般ノ經濟的發
展ノ爲ニモ金融爲替、物價發稅通關等ノ調整、物資ノ融通、同種事
業ノ連繫等ニ付テハ積極的ニ檢討シ協調ヲ遂クヘキコト勿論ナリト
雖モ之カ爲、コレ等ノ點ニ於テ北支ニ從屬セシメラルルニ於テハ夫
レカ財政ニ影響シ從ツテ又政治的的使命ノ遂行、換言セバ蒙疆ノ政
治的獨立性ニモ影響スルニ至ルヘシ。之ヲ要スルニ當地域ハ北支

ト一層緊密ナル連絡協調ヲ必要トスルコト勿論ナルモ單ニ北支ノ經
濟上ノ利害ノミヲ以テ之ヲ律スルコトナク、共榮圈ノ全体的考慮ト
蒙疆ノ政治的的使命ヲ十分ニ達成セントスル見地ヨリ發足シ蒙疆經濟
ノ獨立性ヲ尊重セントスルニ外ナラザルコトヲ諒トセラレ此上作ラ
御支援ヲ戴キ庶シ

鐵產資源開發ノ現況

當地域ノ鐵產資源ノ豐富ナルハ夙ニ世ニ喧傳セラルル所ニシテ石炭
ノ埋藏量三〇〇億噸(晉北炭田二九〇億、察南及大青山炭田各五億
噸)鐵礦石(龍烟)二億二千萬噸ノ外石綿、雲母、黑雲母等現下國防
上必須ノ地下資源亦多量ニ存在ス
此豐富ナル地下資源ノ開發ハ占領直後ヨリ着手セラレシ處ニシテ、
大同炭礦及龍烟鐵礦ハ夫夫滿鐵及興中公司ニ經營ヲ委託セラレアリシ
カ昭和十四年七月ニハ龍烟鐵礦株式會社ヲ設テ昭和十五年一月ニハ大同炭
礦株式會社設立モラレ本格的開發ニ着手セリ右ノ外石炭ニアリテハ

0285

蔡南炭田ノ花圃炭礦股份有限公司、大青山炭田ノ大青山炭礦股份有限公司ヲ主要ナルモノトスルモ此ノ外部人又ハ華人經營ニ係ル群小炭礦アリ。石綿ニツキテハ津浦地區ノ淺野セメント會社、薩拉地齊地區ノ日本セメントツトバイ株式會社陶ト齊附近ノ日本アムスベスト株式會社等ノ開發發行セルアリ、又遼瀋雲母株式會社ハ平地泉附近ニ於テ、發達黒鉛礦業所（東洋紡績系）ハ黃土附近ニ於テ夫夫雲母、黒鉛ノ採掘ニ從事シアリ以上諸會社ノ中大同炭礦、龍烟鐵礦ノ兩社ハ北支那開發株式會社ノ子會社ニシテ其他ハ發達法人或ハ日本法人ナリ

上記諸會社ノ生産設備ハ目下進捗中ニシテ現在計畫資本ニ基ク設備完成ノ際（昭和十九年一〇年）ニ於テハ石炭ニアリテハ年四百五十萬噸、大同三百五十萬噸、花圃炭礦二十五萬噸、大青山炭礦三十萬噸、鐵礦石ニアリテハ年百五十萬噸ニ達スル見込ナルモ日本ニ於ケル此等資源ノ需要切ナルモノアルニ鑑ミ、昭和二十年 度ニ於テ石炭年七

百七十萬噸鐵礦石二百萬噸ノ生産ヲ目標トスル。鐵道開發五ヶ年計畫ヲ立案シ本院ニ提出セリ

昭和十五年度ニ於テハ石炭年二百五十萬噸鐵礦石四十萬噸ヲ目標トアル處實績ハ目下調査中ナルモ石炭大約一六〇萬噸鐵礦石約三〇萬噸ニ達シ目標ニ對シ石炭ハ約八〇%鐵礦石ハ約七五%ノ成績ヲ收メタリ

昭和十六年度ニ於テハ石炭ハ二百六十萬噸鐵礦石六十萬噸ヲ目標トシアリ。資金資材ノ入手困難ナルハ充分豫想セララルモ業者ヲ督勵シ極力所期ノ生産目標ニ到達セシムル所存ナリ

石綿、雲母、黒鉛ハ昭和十五年度中ハ未タ試掘ノ程度ヲ脱セスハ實績、石綿、二三三噸、雲母二七六噸、黒鉛一五五噸、十六年度ヨリ本格的採掘ニ着手ニル豫定ニシテ石綿ハ千五百萬噸ヲ目標トシ少クモ八百萬噸ヲ確保シ雲母ハ原礦六百萬噸、黒鉛ハ五百萬噸ヲ目標トシ極力之ヲ確保シ期シ居レリ

六 農 業

農業ハ察哈爾盟ノ南半、歸綏平原、豐鎮高地及ヒ「オールドス」平野ノ東北部等帯ネ京包沿線地區ニ於テ行ハレ、耕地面積ハ約二万四千平方軒ニシテ總面積ノ約十九%ニ相當シ、農家戸數ハ約八十三万戸ニシテ總戸數ノ約八十六%ニ當ル
栽培作物ハ蕎麥、粟、小麥、黍、及ヒ豆類等ノ雜穀ヲ主トシ、粟、大麻等ノ特用作物、並ニ白菜、葱、馬鈴薯等アリ。之等農産物中雜穀ノ生産額ハ年額百二十万噸前後ニシテ其ノ中約九十五万噸ハ地區内消費ニ充テラレルカ、殘餘ノ二十五万噸内外ハ京津地方ニ輸出サレ、又阿片ハ年産千數百萬兩ニシテ其年收納ハ約六百萬兩ニシテ農産ノ輸出ニ依ル收入ト共ニ蒙疆經濟ノ基調ヲナシテ居ル
當地區ニ於ケル農業ノ使命ハ國家經濟力ヲ充實シ、農民生活ノ安定ニ資スルト共ニ、内地ニ對シ經工業材料ヲ、又北支ニ對シ食糧ヲ補給スルニアリ。此ノ見地ヨリ既存作物ノ改良増産、並ニ未利用資

源ノ開發ヲ圖ル爲、農産物増産五ヶ年計畫ヲ樹立シ本年度ヨリ米、大麥、小麥、燕麥、大麻及ヒ蔬菜ノ増産計畫ノ實行ニ努メツツアル次第テアル

七 林 業

蒙疆地區内ニハ現在林業ト稱スヘキモノ殆ント無ク、森林モ河川沿岸ニ楊柳、榆等カ疏林ノ形ヲ以テ成育セルニ過キサレ状態ナリ然ルニ地區内ニ於ケル林業ハ水源涵養、植生維持改良上將又資源開發用材ノ自給上重要ナルノミナラス、住民ノ保健並ニ建築材料、及ヒ燃料ノ供給上其ノ振興ヲ圖ルノ要切ナルモノアリ。而モ急速ニ森林ノ造成ヲ要スル現況ニ鑑ミ、成育容易ナル樹種ヲ選ビ、植栽可能ナル平地ヨリ漸次全地域ニ之ヲ擴大セシムル方針ヲ以テ造林九十ヶ年計畫ヲ樹立シ、其ノ第一期計畫ノ實行ニ着手中ナリ

八 畜 産 業

蒙疆ニ於ケル畜産ハ漢人農耕地帯ニ於ケル畜力利用、畜産食料品ノ

供給ヲ主目的トスル有畜農業形態ノ畜産ト純蒙古地帯ニ於ケル唯一ノ生業トシテノ畜産ハ之ヲ特ニ牧業ト稱ス一トノ二ツノ相異ナル形態ニ依リ行ハレ、之ヲ地域別ニ見レバ、陰山山脈ノ東端ト多倫トヲ結フ線以南ノ地域ハ概ネ前者ニ屬シ、其ノ線ノ北方地區ハ後者ニ屬シ、其ノ地積ハ管下總地積ノ八〇%ヲ占ムルモノト稱セラレル
 地區内ニ於ケル家畜飼養狀況ニ就テハ確實ナル調査結果ナキモ駐蒙軍ノ調査ニ依レハ地區内家畜頭數ハ左ノ如シ

牛	五六〇〇〇〇頭
馬	五〇〇〇〇〇
騾	九六六〇〇
驢	二七五〇〇〇
山羊	八九四七〇〇
綿羊	三九五〇〇〇
駱駝	五二〇〇〇〇

豚 五四〇〇〇〇頭

右ノ中牛、馬、山羊、綿羊及ヒ駱駝ノ八十乃至九十%ハ盟族地帯ニ於テ飼育サレ、騾及ヒ驢ハ晋北管内ニ最モ多ク、豚ハ鐵道沿線地區ニ多ク飼育サル
 家畜及ヒ其ノ生産物ノ生産額ハ農業生産額ニ匹敵スルト云ハレルガ其ノ中地區内消費ヲ控除シタル殘餘ハ北支、滿洲及ヒ内地ニ輸出サレツツアリ
 當地區ニ於ケル畜産ノ特殊的重要性ハ東亞經濟ゾウツク内ニ不足ナル家畜、並ニ畜産物、就中馬匹、羊毛、皮革及ヒ食肉資源等軍需上不可缺少ナル物資ヲ生産供給スルト共ニ畜産ヲ唯一ノ生業トスル蒙古民族ノ民生向上ニ資與スルニアル
 斯カル見地ヨリ馬匹、及ヒ綿羊ノ増殖改良ニ重點ヲ指向シ、畜産増殖五ヶ年計畫ヲ樹立實行中ニシテ、又牧業振興ノ爲、蒙古人ノ生活必需物資ヲ滿洲國ヨリ導入シ、或ハ雪害ノ防除、獸疫ノ防遏等ノ施

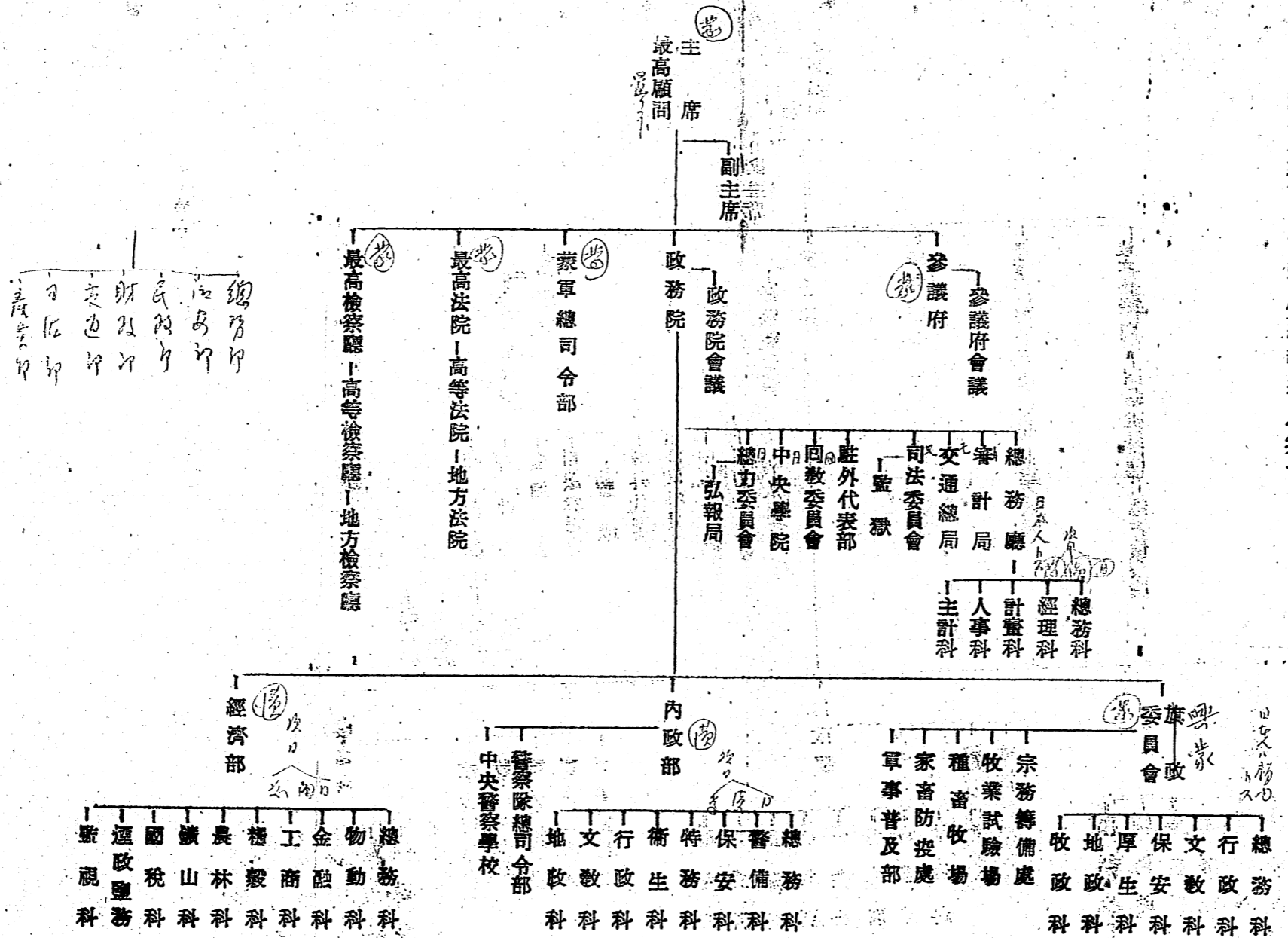
策ニ依リ家畜ノ減耗ヲ經減セシメ更ニ乾草ノ調製貯藏及ヒ鑿井ノ奨勵等ニ依リ積極的ニ牧地ニ於ケル家畜増殖ヲ促シツツアリ
蒙古地帯ノ東部方面（シリンゴール盟及ハル盟）ニ於テハ本年度
雪害ニ依リ家畜被害多ク約總數ノ三割乃至四割ニ達シ目下極力救済
中ナリ
之ヲ要スルニ蒙疆ニ於テハ防共特殊使命ニ鑑ミ政治、思想狀勢ノ安定ノ爲政府機構ノ根本的刷新ト對蒙古人政策ノ修正ヲ圖リ又經濟目
カ發生ノ爲政府財政ノ健全化ニ邁進シ内農産、牧業ノ増産ヲ圖リ之
カ出廻ヲ促進シ又礦産國防資源ノ開發ニ極力努力シツツアリテ當部
トシテハ克ク軍ト緊密ニ連絡ヲ保持シ内地ハ固ヨリ華北、華中、滿
洲國ト提携シツツ政府ヲ指導鞭撻シアリ。然レトモ尙未々所期ノ成
果ヲ得ルコト遠ク一意蒙疆カ遠ニ東亞共榮圈ノ一翼ヲ擔任シ克ク帝
國現下非常時ニ協力シ得ルコトヲ念願之カ目的達成ノ爲職員一同邁
進センコトヲ期ス

軍事極秘

蒙古聯合自治政府組織表(案)

二十部ノ内2部

森田



0290

竹下長官「本署より協定せらるるに望み奉りて」
昭和十六年九月
興亞院蒙疆連絡部

概況

蒙疆ノ政務指導ニ關シ駐蒙軍ト興亞院蒙疆連絡部トノ間ノ取極要綱(一案)

- 一 興亞院蒙疆連絡部(以下連絡部ト稱ス)ハ全蒙疆カ駐蒙軍司令官ヲ中心トシテ一致團結スルコトカ現下ノ時局處理ノ爲極メテ肝要ナルコトヲ確認シ其趣旨ニ基キ業務ヲ律スルモノトス
- 二 駐蒙軍司令官カ蒙古政府ニ對シ有スル内面指導權ハ連絡部ノ存否如何ニ拘ハラズ之レヲ堅持スルモノトス
- 三 第一第二項確認ノ下ニ連絡部ノ存續スル期間ハ興亞院官制及附帶閣議諒解事項ニ基キ軍事、警備ニ關スル以外ノ政務ニ就キ連絡部ハ興亞院本院並ニ駐蒙軍ノ意圖ヲ体シ蒙古政府ヲ指導スルモノトス

四 駐蒙軍カ第二項ノ權限ニ基キ蒙古政府ニ對シテ行フ政務ニ關スル指導ハ連絡部ヲ經由スルモノトス但シ軍事、警備ニ直接關聯シ處理ヲ要スルモノヲ除ク

五 蒙古政府ノ駐蒙軍ニ對スル連絡ハ連絡部ヲ經由スルヲ本則トス

六 蒙疆(蒙古政府ヲ含ム)指導ノ爲重要ナル企劃ハ軍司令官ヲ議長トスル蒙疆連絡部會議(既設ノモノ)ニ附議決定ノ上實行ニ移スモノトス

將來蒙疆ノ政務指導機構ヲ如何ニスヘキヤハ後ニ所見ヲ申述フルコトトスルモ少クモ現狀ニ於テハ各機關カ其官制、條約等ニ基キ且現下ノ狀勢ヲ加味シテ軍ヲ中心トシ然モ可及的相互權限ヲ尊重シ系統ヲ立テテ業務ニ服スルゴトカ能率發揮ノ爲極メテ肝要ナリト價ス然ルニ最近一部ニ於テ軍中心ノ意義ヲ極端ニ解釋シ官制條約等ニ關ハラス總テノモノヲ直接軍自ラ處理スルモノナル如ク曲解シ或ハ將來ニ對スル意見（此意見ハ將來ノモノトシテモ直チニ同意シ得サルモノナルモ）ト現實トヲ混同シ例ヘハ「蒙疆連絡部ハ不要ナリ蒙疆ハ軍カ直接指導スレハ可ナリ」等ト稱シ之レヲ現地ニ於テ不用意ニ放言シ且官制等ヲモ全然無視セントスル態度ニ出テ爲ニ現地ノ空氣

ヲ不明朗ナラシメ或ハ各機關業務ノ進捗ヲ不圓滑ナラシムルカ如キ傾向ナシトセス、斯ノ如キハ蒙疆全般ノ能率發揮ヲ阻害スルノミナラス延ビテハ蒙疆ノ實質的中核タルヘキ軍ノ威信ニモ關スルコトトナリ頗ル遺憾トスル所ナリ
現下ノ時局ニ於テ大陸ニ業ニ從フ者カ軍ヲ中心トシテ行動ヲ律スヘキコトニ關シテハ蒙疆連絡部トシテハ平素特ニ強調實踐シアル所ニシテ政務事項ニ關シテハ連絡部トシテ軍ニ對シ所要ノ意見ハ申述フルモ中央ノ指令意圖ニ反セサル限り軍ノ如何ナル指示ニ對シテモ忠實ニ之レヲ服行シツツアリ
然レトモ連絡部カ苟シテモ 天皇ノ御裁可ヲ經タル官制竝ニ之レニ基ク附帶閣議諒解事項ニ依リ業務ヲ遂行シアル以上是等ヲ全面的ニ

否定シ軍事、警備ニ直接關係ナキ政務事項迄モ軍ト蒙古政府トノ間
ノ直接交渉ニ依リテ處理シ連絡部ノ干與ヲ賦スルカ如キ態度ニ對シ
テモ尙之レヲ默視スルコトハ、天皇ノ官吏トシテ職務ニ忠實ナル所
以ニ非サルノミナラス斯ノ如キハ官制、諒解事項竝ニ一昨年來累次
ニ亘ル中央ノ指示ニ反シ且大局的見地ニ立ツ時軍自依ノ爲ニモ決シ
テ良好ナル結果ヲ招來スルモノニ非スト思惟ス、是レ敢テ本案ヲ提
示スル所以ナリ

0293

附 録

將來ノ蒙疆政務指導機構ニ關スル意見

「滿洲國ノ例ニ倣ヘハ蒙疆連絡部ハ不要ナリ」トノ意見ハ理論的ニハ一應首肯シ得ルモノナルモ然モ蒙疆ノ現状ヲ仔細ニ觀察セハ必スシモ然ラズ寧ロ現制ヲ以テ適切ニ運営スルコトカ適當ナルノ結論ニ到達スルモノナリ

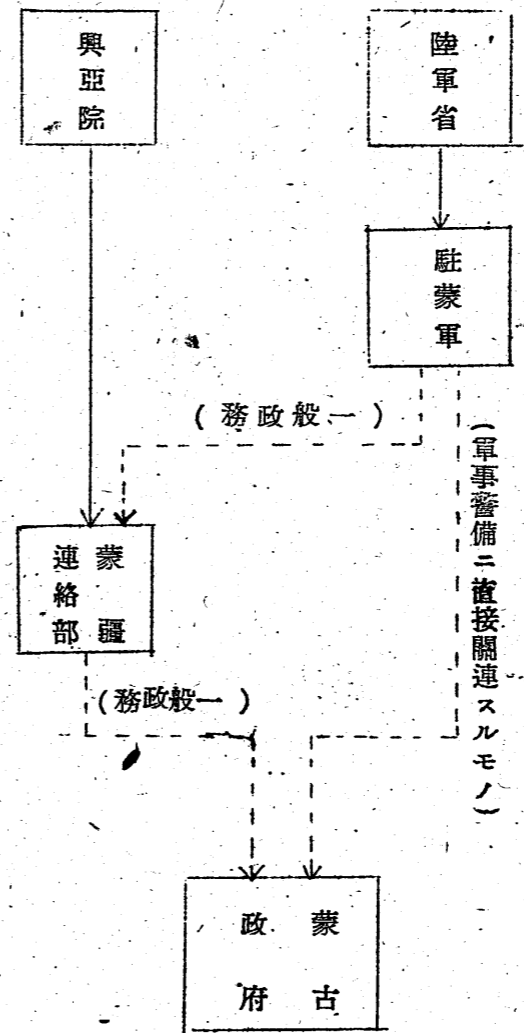
蓋シ蒙古政府日系官吏ハ數及其他ニ於テ滿洲國ノ夫レト同日ニ語ルヲ得ス就中最近日本ヲ中心トスル經濟統制等複雑ナル業務處理ノ爲ニハ甚タシク手不足ナリ蒙疆連絡部亦華北華中ノ夫レニ比シ内容貧弱ニシテ此兩者カ彼此相補フコトニ依リ辛フシテ適切ナル運行ヲ期シ得ヘシ。駐蒙軍ノ政務指導ニ從事スル要員亦關東軍等ニ比シ著シ

ク懸隔アリテ軍ノミカ適切ニ指導スル爲ニハ更ニ多數ノ要員ヲ必要トスヘシ

日系官吏ヲ増加スルコトハ現地僑民心ニ與フル影響ヲ顧慮シ又差當リ蒙古政府ノ財政的見地ヨリスルモ必スシモ有利ナラス（現ニ一昨年以來中央ノ方針ニ依リ人員ヲ縮減シ來レル狀況ナリ）

右ノ如キ狀況ヲ觀察スル時結局將來ト雖モ軍カ連絡部ヲ一層軍特務部的ニ活用シ（此趣旨ヲ以テ連絡部首腦幹部ニ現役將校ヲ充用セラレタルナルヘシ）以テ軍ノ意圖ニ即應セシムルト共ニ連絡部日々ノ業務ヲシテ政府日系官吏ト可及的合作スルノ趣旨ヲ以テ實施スル如ク律スルヲ以テ最適當ナリト信スルモノナリ

一、陸軍省
 二、陸軍省
 三、陸軍省
 四、陸軍省
 五、陸軍省
 六、陸軍省
 七、陸軍省
 八、陸軍省
 九、陸軍省
 十、陸軍省
 十一、陸軍省
 十二、陸軍省
 十三、陸軍省
 十四、陸軍省
 十五、陸軍省
 十六、陸軍省
 十七、陸軍省
 十八、陸軍省
 十九、陸軍省
 二十、陸軍省
 二十一、陸軍省
 二十二、陸軍省
 二十三、陸軍省
 二十四、陸軍省
 二十五、陸軍省
 二十六、陸軍省
 二十七、陸軍省
 二十八、陸軍省
 二十九、陸軍省
 三十、陸軍省
 三十一、陸軍省
 三十二、陸軍省
 三十三、陸軍省
 三十四、陸軍省
 三十五、陸軍省
 三十六、陸軍省
 三十七、陸軍省
 三十八、陸軍省
 三十九、陸軍省
 四十、陸軍省
 四十一、陸軍省
 四十二、陸軍省
 四十三、陸軍省
 四十四、陸軍省
 四十五、陸軍省
 四十六、陸軍省
 四十七、陸軍省
 四十八、陸軍省
 四十九、陸軍省
 五十、陸軍省
 五十一、陸軍省
 五十二、陸軍省
 五十三、陸軍省
 五十四、陸軍省
 五十五、陸軍省
 五十六、陸軍省
 五十七、陸軍省
 五十八、陸軍省
 五十九、陸軍省
 六十、陸軍省
 六十一、陸軍省
 六十二、陸軍省
 六十三、陸軍省
 六十四、陸軍省
 六十五、陸軍省
 六十六、陸軍省
 六十七、陸軍省
 六十八、陸軍省
 六十九、陸軍省
 七十、陸軍省
 七十一、陸軍省
 七十二、陸軍省
 七十三、陸軍省
 七十四、陸軍省
 七十五、陸軍省
 七十六、陸軍省
 七十七、陸軍省
 七十八、陸軍省
 七十九、陸軍省
 八十、陸軍省
 八十一、陸軍省
 八十二、陸軍省
 八十三、陸軍省
 八十四、陸軍省
 八十五、陸軍省
 八十六、陸軍省
 八十七、陸軍省
 八十八、陸軍省
 八十九、陸軍省
 九十、陸軍省
 九十一、陸軍省
 九十二、陸軍省
 九十三、陸軍省
 九十四、陸軍省
 九十五、陸軍省
 九十六、陸軍省
 九十七、陸軍省
 九十八、陸軍省
 九十九、陸軍省
 一百、陸軍省



蒙古政府指導系統

0295



昭和十六年四月二十一日

政務部第一課長

政務部第一課長

殿

蒙 査、状況報告ノ件

首題ノ件ニ關シ蒙 査連絡部小川調査官上京ノ際携行セルヲ以テ送付ス
追テ之ヲ細部並實情ニ關シ明明後日中ニ小川調査官ヨリ聴取ノ旨ニ
付書メ御研究願度

配付先 政務部長（一部）政務第一課長（二部）

政務第二課長（二部）

内閣

B6 マイアライター用紙

0296

REEL No. A-0214

アジア歴史資料センター



狀
況
報
告

興
亞
院
蒙
疆
連
絡
部

於
昭
和
十
六
年
四
月

0297

REEL No. A-0214

0500

アジア歴史資料センター

第一、政務ニ關スル事項

一、政府機構ノ改正ニ就テ

政府機構ハ政權樹立後約一年半其間ノ實績ニ鑑ミ概ネ左ノ點ニ重點ヲ置キ昨年末來研究ノ結果略具體案ヲ得近ク其決定ヲ見ントスル狀

況ナリ、
(1) 高度國防政權トシテノ機能ヲ完全ニ發揮シ政治ノ運営ヲ敏速確實ナラシムルコト

(2) 機構ヲ簡易明確ニシ各其ノ主要任務ヲ明瞭ナラシムルコト

(3) 人的要素ハ日人ノ現地人タルヲ問ハス力致精銳主義ニ依ルコト

(4) 蒙地行政ノ浸透ヲ促進スル爲特別ノ機構ヲ設置ス

(5) 其ノ他補助機關ハ必要ノ最少限ニ壓縮統合ス

二、政情一般ニ就テ

一般現地人ノ民心ノ動向ハ逐次安定ノ方途ニ向ヒツアルモ未タ樂觀ヲ許ササルモノアリ即チ當地域ハ赤化セル外蒙ニ直接赤化抗日ノ

深刻執拗チ地下行勢アリ且對日敵ニハ日本側官民ノ現地人ニ對スル態度ノ適切ヲ缺クモノアリ之レハ蒙地反シムルノ原因ニ依リ敵側ノ施策ハ一層油ヲ注クノ結果トナリ又特ニ蒙地帯ニ於ケル物資配給ノ不圓滑ハ益々此傾向ヲ大テラシメツアルカ如シ、依テ連絡部トシテハ、之カ對策ニ關シ軍ニ連絡シ、政府ヲ鞭撻シ政府機構ノ改正ト經濟ノ確立ト相俟テ之等障礙ヲ除去シ民心ヲ安定セシムルタメ誠意努力シアリ

三、內蒙古思想の状況

地域內蒙古人ハ一般ニ政治的獨立ノ思想強ク特ニ現狀ニ飽キ足ラズシテ(1)王侯等ノ封建制度ヲ保存シツツ蒙古ノ興隆ヲ期シ獨立ニ導カントスルモノ(2)王侯制度ニハ必スシモ否定セサルモ蒙古ノ興隆ノ爲ニハ王侯ノ覺醒ヲ先決トナスモノ(3)王侯打倒蒙古獨立ヲ標榜スルモノ(4)青年ヲ中心トスル急進熱烈ニ封建打倒ニ依ル獨立ヲ企圖スルモノ等アリテ此等ハ直接間接ニ現政府蒙古人要人特ニ德王ニ迫リ其目

的達成ニ暗躍セリ、先般徳王ノ訪日モ此氣運ヲ打開セントスル意圖ニ出タルモノニシテ、日本側トシテモ此蒙古人ノ思想動向ヲ適宜善導シ以テ蒙疆特殊ノ政治的使命ヲ達成セシメサルヘカラス、之カ施策ニ關シテハ目下慎重ニ考慮シツツアリ、其細部ハ口頭報告ス

同治安ニ就テ

一般治安ニ就テ
蒙疆地區ノ治安ハ皇軍進攻ノ肅正討伐ニ依リ悉次良好ニ向ヒツツアルモ二月末現在ノ敵總兵力ハ尙約五七、三九〇名ヲ算シ之ヲ昨年ニ於ケル平均敵兵力約五〇、五〇七ニ比スレハ約七千ノ増加ニシテ重慶偽政府匪軍、馬占山軍及ヒ同敵軍ハ黃河右岸鄂爾多斯地區ニ在リ又共產軍ノ主力カ京包線豐鎮西側地區及ヒ察南、晉北南境內長城線一帶ニ蟄踞シアリテ樂觀ヲ許サス然レ共敵ハ兵器、彈藥ノ缺乏ト給養ノ困難トニ依リ戦力頓ニ低下シ加フルニ軍及ヒ、各警備機關ノ嚴重ナル警戒ト、不斷ノ討伐トニ依リ最近投降降順増加シ、治安ノ確

保概シテ可ナルモ最近喬日成ノ反變等アリ斷シテ倫安ヲ許ササル所ナリ、特ニ伊克昭盟ノ大部ノ地區ハ蒙疆政權ノ威力未タ滲透セル純然タル敵地タルト共ニ、察南、晉北ノ各南部一帶ノ地區亦同様皇軍威力ノ徹底セサル最モ危險ナル地帯ヲ形勢シアルハ明朗蒙疆建設ノ爲寔ニ遺憾トスル所ニシテ、治安工作上將來ノ努力ヲ要スル所ナリ

鐵道治安情況

鐵道沿線ノ治安ハ良好ニシテ、本年ニ入りテヨリ鐵道ノ匪害ハ僅カニ列車顛覆二件、擄襲擊三件ニシテ、尙鐵路當局ハ宣撫工作ニ依ル愛路村ノ強化ト警備ノ嚴重トニ依リ沿線治安ノ確保ニ努メツツアリ最近ニ於ケル著名ナル敵ノ行動
由來厚和、包頭地區ハ傳作義ノ營地盤ナルヲ以テ今日迄屢々其事回ヲ謀リシカ、本年三月中旬ニハ優勢ナル回教軍ヲ鄂爾多斯地區ニ侵入セシメ、同地ニ在リシ綏西聯軍及ヒ蒙古軍ノ一部ヲ包圍攻撃セシモ友軍ノ奮戦ト日本軍ノ協力ニ依リ之ヲ擊退セリ

敵ノ擾亂工作

本年ニ至リ重慶側及ヒ傳作義ノ後方擾亂工作ハ益々熾烈ニシテ何レモ謀略團員ヲ派遣シテ情報ノ蒐集、民衆武装化ニ依ル抗戰意識ノ昂揚等ニ從ハシメ或ハ便衣隊ヲ潛入セシメ要人ノ暗殺、經濟、鐵道及ヒ通信線ノ破壞ヲ試ミ、又ハ共產軍ハ警察隊、自衛團ノ襲撃、強制募兵等我カ占據地域内ノ擾亂工作ニ狂奔シアリ

共產黨ノ活動情況

駐蒙軍ハ各機關ヲ統制シ治安肅正ノ第一目標ヲ共產黨ノ徹底的撲滅ニ指向シ銳意努力シアルカ彼等ノ活動ハ潛行的極メテ巧妙ニシテ、昭和十三年五月以降蒙匪赤化ノ目的ヲ以テ、厚和ニ緩蒙支部ナルモノヲ組織シ各層民衆間ニ喰入り赤化工作ニ狂奔シアリシカ、昨秋當地憲兵隊ハ之ヲ檢擧シ其ノ剷除絶滅ニ邁進シアリ、然レ共產軍ノ巧妙ナル宣傳ノ爲邊境共產地區殊ニ厚和南方清水縣各部落ノ如キハ全民衆悉ク其ノ手先トナリ抗日反新政權ヲ標榜シテ共產軍ヲ援助シ

アリ、特ニ最モ戒心ヲ加フヘキハ共產黨ノ對蒙古人宣傳ニシテ最近彼等ハ四子王府及ヒ純蒙地帯タル「シラムリン」ニ迄赤化ノ魔手ヲ伸シ蒙古人青年層ニ澎湃タル王侯打倒、蒙古獨立運動ノ思想ヲ巧ニ利用シ執拗ナル宣傳ニ銳意從事シアルコトハ蒙疆統治上重大ナル問題ニシテ北方ヨリ來ル外蒙ノ強壓ト併セテ之カ撲滅對策ハ最モ願慮ヲ要スル重要事項トス

五 政府人事ニ就テ

從來政府ノ行政機構ノ過大ニスクルニ伴ヒ其ノ職員數ノ多キニ過クルコトハ一般ニ認メラルルトコロニシテ政府ハ行政機構ノ改革ヲ企圖スルト共ニ職員整理ノ必要ヲ認メ昨年第一回ノ整理ヲ行ヒ日系高等官五名、屬官九六名、現地系高等官二五名、屬官五〇四名ヲ淘汰シ更ニ本年第二回トシテ三月三十一日附ニテ日系高等官二九名、委任官九七名、現地系高等官二七名、屬官九三五名ノ淘汰ヲ實施セ

以上ノ整理ノ結果四月一日現在ノ政府委任官以上ノ現在職員數ハ左ノ如シ

(一) 中央官廳及其ノ直轄官廳

日 系	八五六名
漢 系	三九九三名
蒙 系	一八〇名
計	五〇二九名

(二) 各政廳盟公署及其ノ直轄官廳

日 系	七三二名
漢 系	八二三九名
蒙 系	一一二八名
計	九一一九名

(三) 各市縣旗公署及其ノ直轄官廳

日 系	三八三名
-----	------

漢 系	三〇四七名
蒙 系	一三六名
計	三、一八三名

以上總計日系一、九九三名、漢系一、七二七九名、蒙系四、四四四名、合計一、九七一六名ニシテ内警察關係職員警尉補以上約二、三〇〇名(内日系約五〇〇名)ナリ
依テ前述政府機構ノ根本的改正ト相俟テ人事行政ヲ確立シ日系現地系ノ比率ヲ規正シ尙特ニ現地系職員ノ活用ニ就テ極力指導監督セントス

一、政府ノ財政狀態

政府財政ハ政權獨立直後諸事業施設ノ急激ナル澎張トシ、昨年度農作物ノ不作水害ニ依リ一時財政急迫シタルモ爾來緊縮健全主義ヲ敢行シ一般會計ニ於テ一昨年度ハ二千萬圓、昨年度ハ千五百万圓

第二、財政、經濟ニ關スル事項

ノ借入ヲ爲シタルモ本年度豫算ハ借入金ヲ全廢スルヲ得タリ、豫算額ニ於テモ昨年度ハ約六千万圓ナルヲ本年度ハ五千三百万圓ニシテ約七百万圓ノ節減ヲ以テ實施スルニ至レリ

尙政府債ノ現況ハ昨年末ニ於テ

總額 七一〇三萬圓
 一般會計 三〇〇〇萬圓
 特別會計 四一〇三萬圓

ニシテ本年度起債豫定額ハ實行豫算ニ依レハ總額一、六六六萬圓ハ全部特別會計ニナリ

地方費ノ設定
 稅收入ノ增收ト地方行政ノ圓滑化ヲ圖ル爲本年一月政廳、盟地方費法ヲ公布セリ。右ニ依レハ政廳、地方費ノ收入ハ田賦、禁烟、煙稅、其他基本財源收入等ニシテ其支辨スヘキ費目ハ警察、文教、土木、勸業、及厚生ニ關スル經費。市縣財政整理ニ關スル經費ナリ。

ニ爲替、貿易關係

目下進行中ニシテ七月頃實施スル豫定ナリ

當地域ハ事變前ニ於テハ農牧ヲ中心トスル原始產業ト、西北地域ト京津ヲ結フ通過貿易トニ依存セルモノニシテ的確ナル統計ノ據ルヘキモノナキモ例年輸出超過ノ狀態ナリシモノノ如ク、昭和十三年度ニ於テモ輸出約一億六百万圓輸入約七千万圓差引三千六百万圓ノ輸出超過ナリシカ、昭和十四年夏ノ大水害ニ依リ、輸出ノ減退ハ約九千二百万圓ノ輸入ノ激増ハ約一億二千万圓ノ來シ爲ニ約二千八百万圓ノ入超トナリ更ニ昭和十五年度ニ於テモ開發資材其ノ他生活必需品等ノ爲約一億五千九百万圓ノ輸入ニ對シ、輸出ニ在リテハ其ノ大宗タル阿片ハ約三百九十万兩、約六千三百万圓ノ輸出ヲ見タルヲ雜穀ノ出超不振ハ約四万兩等ノ爲輸出總額約一億一千五百万圓ニシテ四千四百万圓ノ入超トナリ、斯クテ連年ノ貿易逆調ノ爲爲替資金ノ瀕渴ヲ來シ日本、滿洲及北支ニシテデットノ設定シ本年三月

末ニ於テ日本ヨリ七百萬圓、滿洲中央銀行ヨリ七百五十萬圓、中國聯合準備銀行ヨリ四百三十九萬圓ノ借入金ヲナシ居ルモ尙五千餘萬圓ノ爲替送金ヲ抑制シツツアル狀況ナリ
之カ對策トシテハ輸出ノ促進等ニ其ノ大宗タル阿片ト雜穀ノ輸出増加ヲ圖ルト共ニ緊急テラテル物資ノ輸入抑制ニ俟タサルヘカラス。即チ阿片ニ付テハ昨年十二月ノ與亞院連絡委員會幹事會議ニ於テ、當地域ハ阿片ノ生産地トシテ生産阿片ノ完全收納ニ努力シ、最短期間内ニ中北支所要求量ノ合理的價格ニヨル移出ヲ可能ナラシムヘク決議セラレ、昭和十六年度需給計畫ニ於テハ最小限度ノ数量トシテ前年ノモノ二百十萬兩當年ノモノ六百五十萬兩計八百六十萬兩（價ニ一兩十五圓トスレハ一億二千九百萬圓トナル）ヲ北中支ニ供給スヘク計畫シアリ
雜穀ニ付テハ北支トノ協定ニ依リ、昭和十五年度生産ノモノニ付三十萬兩（一兩二百五十圓トスレハ七千五百萬圓トナル）ノ輸出計畫

ナリシモ收荷意ノ如クナラズ現在迄ニ僅カニ約三萬兩ヲ輸出セルニ過キス之カ收荷機薄ニ付テハ種々考究中ナリ
輸入ノ抑制ニ付テハ張度ノ爲替管理及貿易統制ヲ行ヒツツアルモ尙前記ノ如ク五千餘萬圓ノ送金許可ヲ留保セル狀況ナリ、之ヲ要スルニ貿易ノ逆調ハ一應ニ變調ニシテ、阿片及雜穀ノ輸出ニシテ順調ナルニ到ラハ之ヲ挽回スルコト容易ナルヘク必スシモ悲觀スヘキモノニ非スト思考ス

三 金融關係

中央銀行タル蒙疆銀行ハ昭和十二年十一月設立セラレ地域内唯一ノ發券銀行トシテ活動シツツアリ、其ノ通貨發行高ハ四月九日現在ニテ約七千三百七十九萬圓ニシテ之カ流通區域ハ敵性地區ヲ除ク全地域ニ及ヘリ。全行ノ預金總高ハ本年三月末現在以下全シ一六千九百六十八萬九千圓貸付金總額一億五千六百九十四萬八千圓ナリ
實業銀行ハ察南、察古、晋北ノ三銀行アリ其ノ預金總額三千萬二千圓貸付金總額四千四百三十六萬六千圓ナリ

現地資金ノ調整ニ付テハ領事館及政府ト連繫シ連絡部ニ於テ行ヒツ
ツアルモ之カ強化ノ爲關係者ヲ以テ資金調整審議會ヲ設置スヘク計
畫中ナリ

四 北支トノ經濟的關聯性ニ付テ

當地域公地運の北支ト密接シ經濟的ニモ北支ニ依存スルコト多ク其ノ
關係最モ緊密ナリト雖モ一方經濟的利害ヲ超越シタル純然タル帝國
國防ノ政策的使命ヲ以テ生シタル當地域トシテハ其ノ政治的ニ獨立
スル爲ニハ財政經濟的ニモ獨立スルニ非ザレハ決シテ其ノ使命ヲ達
成スル能ハス。即チ其ノ地域の關聯性ニ於テ、又區域全般ノ經濟的發
展ノ爲ニモ金融爲替、物價稅通關等ノ調整、物資ノ融通、同種事
業ノ連繫等ニ付テハ積極的ニ檢討シ協調ヲ遂クヘキコト勿論ナリト
雖モ之カ爲、コレ等ノ點ニ於テ北支ニ從屬セシメラルルニ於テハ夫
レカ財政ニ影響シ從ツテ又政治的的使命ノ遂行、換言セバ蒙疆ノ政
治的獨立性ニモ影響スルニ至ルヘシ。之ヲ要スルニ當地域ハ北支

ト一層緊密ナル連絡協調ヲ必要トスルコト勿論ナルモ單ニ北支ノ經
濟上ノ利害ノミヲ以テ之ヲ律スルコトナク、共榮圈ノ全体的考慮ト
蒙疆ノ政治的的使命ヲ十分ニ達成セントスル見地ヨリ發足シ蒙疆經濟
ノ獨立性ヲ尊重セントスルニ外ナラサルコトヲ諒トセラレ此上作ラ
御支援ヲ戴キ度シ

五 鐵產資源開發ノ現況

當地域ノ鐵產資源ノ豐富ナルハ夙ニ世ニ喧傳セララル所ニシテ石炭
ノ埋藏量三〇〇億噸（晋北炭田二九〇億、察南及大青山炭田各五億
噸）鐵鑽石（龍烟）二億二千萬噸ノ外石綿、雲母、黑鎳等現下國防
上、必須ノ地下資源亦多量ニ存在ス

此豐富ナル地下資源ノ開發ハ占領直後ヨリ着手セラレシ處ニシテ、
大同炭礦及龍烟鐵礦ハ夫夫滿鐵及興中公司ニ經營ヲ委託サレアリシ
カ昭和十四年七月ニハ龍烟鐵礦株式會社、昭和十五年一月ニハ大同炭
礦株式會社設立セラレ本格的開發ニ着手セリ右ノ外石炭ニアリテハ

寮南炭田ノ花園炭礦股份有限公司、大青山炭田ノ大青山炭礦股份有限公司ヲ主要ナルモノトスルモ此ノ外邦人又ハ華人經營ニ係ル小炭礦アリ。石綿ニツキテハ淡路地區ノ淺野セメント會社、薩拉地齊地區ノ日本エタニツトパイプ株式會社陶ト齊附近ノ日本アスベスト株式會社等ノ開發稼行セルアリ。又寮豐雲母股份有限公司ハ平地泉附近ニ於テ、寮豐黑鉛鑛業所ハ東洋紡績系ハ賣土附近ニ於テ夫夫雲母、黑鉛ノ採掘ニ從事シアリ以上諸會社ノ中大同炭礦、龍烟鐵礦ノ兩社ハ北支那開發株式會社ノ子會社ニシテ其他ハ寮憲法人或ハ日本法人ナリ

上記諸會社ノ生産設備ハ目下進捗中ニシテ現在計畫資本ニ基ク設備完成ノ時ハ昭和十九年一二年ニ於テハ石炭ニアリテハ年四百五十萬噸ハ大同三百五十萬噸、花園炭礦二十五萬噸、大青山炭礦三十萬噸鐵礦石ニアリテハ年百十萬噸ニ達スル見込ナルモ日本ニ於ケル此等資源ノ需要切ナルモノアルニ鑑ミ昭和二十年 度ニ於テ石炭年七

百七十萬噸鐵礦石二百萬噸ノ生産ヲ目標トスル。鐵産開發五ヶ年計畫ヲ立案シ本院ニ提出セリ

昭和十五年度ニ於テハ石炭年二百五十萬噸鐵礦石四十萬噸ヲ目標トアル處實績ハ目下調査中ナルモ石炭大約一六〇萬噸鐵礦石約三〇萬噸ニ達シ目標ニ對シ石炭ハ約八〇%鐵礦石ハ約七五%ノ成績ヲ收メタリ

昭和十六年度ニ於テハ石炭ハ二百六十萬噸鐵礦石六十萬噸ヲ目標トシアリ。資金資材ノ入手困難ナルハ充分豫想セラルルモ業者ヲ督勵シ極力所期ノ生産目標ニ到達セシムル所存ナリ

石綿、雲母、黑鉛ハ昭和十五年度中ハ未ダ試掘ノ程度ヲ脱セスハ實績、石綿、三三三噸、雲母二七六噸、黑鉛一五五噸ハ十六年度ヨリ本格的採掘ニ着手スル豫定ニシテ石綿ハ千五百萬噸ヲ目標トシ少クモ八百萬噸ヲ確保シ雲母ハ原礦六百萬噸、黑鉛ハ五百萬噸ヲ目標トシ極力之ヲ確保ヲ期シ居レリ

0304-2

六 農 業

農業ハ察哈爾盟ノ南半、歸綏平原、豐鎮高地及ヒ「オルドス」平野ノ東北部等概ネ京包沿線地區ニ於テ行ハレ、耕地面積ハ約二万四千平方杆ニシテ總面積ノ約十九%ニ相當シ、農家戸數ハ約八十三万戸ニシテ總戸數ノ約八十六%ニ當ル

栽培作物ハ、蕎麥、粟、小麥、黍、及ヒ豆類等ノ雜穀ヲ主トシ、粟、大麻等ノ特用作物、並ニ白菜、葱、馬鈴薯等アリ。之等農産物中雜穀ノ生産額ハ年額百二十万石前後ニシテ其ノ中約九十五万石ハ地區内消費ニ充テラレルカ、殘餘ノ二十五万石内外ハ京津地方ニ輸出サレ、又阿片ハ年産千數百萬兩ニシテ其年收納ハ約六百萬兩ニシテ農産ノ輸出ニ依ル收入ト共ニ蒙疆經濟ノ基調ヲナシテ居ル

當地區ニ於ケル農業ノ使命ハ國家經濟力ヲ充實シ、農民生活ノ安定ニ資スルト共ニ、内地ニ對シ經工業材料ヲ、又北支ニ對シ食糧ヲ補給スルニアリ。此ノ見地ヨリ既存作物ノ改良増産、並ニ未利用資

源ノ開發ヲ圖ル爲、農産物増産五ヶ年計畫ヲ樹立シ本年度ヨリ米、大麥、小麥、燕麥、大麻及ヒ蔬菜ノ増産計畫ノ實行ニ努メツツアル次第テアル

七 林 業

蒙疆地區内ニハ現在林業ト稱スヘキモノ殆ント無ク、森林モ河川沿岸ニ楊柳、楡等カ疎林ノ形ヲ以テ成育セルニ過キササル状態ナリ。然ルニ地區内ニ於ケル林業ハ水源涵養、植生維持改良上將又資源開發用材ノ自給上重要ナルノミナラス、住民ノ保健並ニ建築材料、及ヒ燃料ノ供給上其ノ振興ヲ圖ルノ要切ナルモノアリ。而モ急速ニ森林ノ造成ヲ要スル現況ニ鑑ミ、成育容易ナル樹種ヲ選ビ、植栽可能ナル平地ヨリ漸次全地域ニ之ヲ擴大セシムル方針ヲ以テ遂於九十ヶ年計畫ヲ樹立シ、其ノ第一期計畫ノ實行ニ着手中ナリ

八 畜 産 業

蒙疆ニ於ケル畜産ハ漢人農耕地帯ニ於ケル畜力利用、畜産食料品ノ

供給ヲ主目的トスル有畜農業形態ノ畜産ト純蒙古地帯ニ於ケル唯一ノ生業トシテノ畜産ハ之ヲ特ニ牧業ト稱ス。トノ二ツノ相異ナル形態ニ依リ行ハレ、之ヲ地域別ニ見レハ、陰山山脈ノ東端ト多倫トヲ結フ線以南ノ地域ハ概ネ前者ニ屬シ、其ノ線ノ北方地區ハ後者ニ屬シ、其ノ地積ハ管下總地積ノ八〇%ヲ占ムルモノト稱セラレル。地區内ニ於ケル家畜飼養狀況ニ就テハ確實ナル調査結果ナキモ駐蒙軍ノ調査ニ依レハ地區内家畜頭數ハ左ノ如シ。

牛	五六〇〇〇〇頭
馬	五〇〇〇〇〇〇
騾	九六六〇〇〇
驢	二七五〇〇〇
山羊	八九四七〇〇
綿羊	三九五五〇〇〇
駱駝	五二〇〇〇〇

豚 五四〇〇〇〇頭

右ノ中牛、馬、山羊、綿羊及ヒ駱駝ノ八十乃至九十%ハ盟旗地帯ニ於テ飼育サレ、騾及ヒ驢ハ晉北管内ニ最モ多ク、豚ハ鐵道沿線地區ニ多ク飼育サル。家畜及ヒ其ノ生産物ノ生産額ハ農業生産額ニ匹敵スルト云ハレルカ。其ノ中地區内消費ヲ控除シタル殘餘ハ北支、滿洲及ヒ内地ニ輸出サレツツアリ。當地區ニ於ケル畜産ノ特殊的重要性ハ京師經濟ゾリツシ内ニ不足ナル家畜、並ニ畜産物、就中馬匹、羊毛、皮革及ヒ食肉資源等軍需上不可缺ナル物資ヲ生産供給スルト共ニ畜産ヲ唯一ノ生業トスル蒙古民族ノ民生向上ニ寄與スルニアル。斯カル見地ヨリ馬匹、及ヒ綿羊ノ増殖改良ニ重點ヲ指向シ、畜産増殖五ヶ年計畫ヲ樹立實行中ニシテ、又牧業振興ノ爲、蒙古人ノ生活必需物資ヲ滿洲國ヨリ導入シ、或ハ雪害ノ防除、獣疫ノ防遏等ノ施

策ニ依リ家畜ノ減耗ヲ經減セシメ更ニ乾草ノ調製貯藏及ヒ鑿井ノ奨励等ニ依リ積極的ニ牧地ニ於ケル家畜増殖ヲ促シツツアリ
蒙古地帯ノ東部方面ハシリンゴール盟等ハハハハニ於テハ本年度
雪害ニ依リ家畜被害多ク約總數ノ三割乃至四割ニ達シ目下極力救済
中ナリ

之ヲ要スルニ蒙疆ニ於テハ防共特殊使命ニ鑑ミ政治・思想狀勢ノ安定ノ爲政府機構ノ根本的刷新ト對蒙古人政策ノ極正ヲ圖リ又經濟自カ發生ノ爲政府財政ノ健全化ニ邁進シ内農産・牧業ノ増産ヲ圖リ之カ出廻ヲ促進シ又礦産國防資源ノ開發ニ極力努力シツツアリテ當部トシテハ克ク軍ト緊密ニ連絡ヲ保持シ内地ハ固ヨリ華北・華中・滿洲國ト提携シツツ政府ヲ指導鞭撻シアリ。然レトモ尙未ク所期ノ成果ヲ得ルコト遠ク一意蒙疆カ遠ニ東亞共榮圈ノ一翼ヲ擔任シ克ク帝國現下非常時ニ協力シ得ルコトヲ念願之カ目的達成ノ爲職員一同邁進センコトヲ期ス

0307△